

2025年度 大学院入試問題の出題意図

教職実践高度化専攻 10月26日（土）実施

教科・科目等名	専門試験（教育に関する専門試験）
出題責任者氏名	
出題意図	
問 1 本問題は、探究学習の具体的な実践力を問うだけでなく、教科横断的な学びの重要性や、教師に求められる工夫・準備を考えさせることで、指導者としての成長を促すことを意図している。教師にとっては、理論を踏まえた具体的な指導計画の立案と、学びを広げる視点が求められる場面である。これにより、児童生徒の主体的・協働的な学びを支える力が養われる。 【問題①】の意図：探究学習の設計力と教科統合の理解 1. 学習者主体の探究プロセスへの理解を深める 探究学習の5段階（導入～発表と振り返り）の流れに沿って、児童生徒がどのように課題を見つけ、解決策を考えていくかを把握させる。自ら課題を設定する力や協働的に学ぶ姿勢がどの段階でどう育まれるかを意識した指導案作成が求められる。 2. 具体的な教科や単元を選ぶことで、実践力を育成する 単なる理論的な説明にとどまらず、具体的な教科や単元と関連付けた探究活動の構想を考えさせることで、現場での実践力を養う。また、STEAM教育を意識させることで、理科・算数だけでなく、芸術や技術の要素も取り入れた探究学習の設計力が試される。 3. 探究学習の5段階の指導法への理解の確認 各段階の目的や指導の工夫を具体的に論述するため、探究学習の理論的理解と実際の指導法の両方が身につけているかが問われる。また、児童生徒の探究を支えるファシリテーターとしての教師の役割も意識することが求められる。 【問題②】の意図：教科横断的な学びへの準備と工夫の重要性 1. 教科横断的な学びの意義を理解させる。 STEAM教育など、教科を横断する視点から指導することで、児童生徒の思考の幅を広げる重要性を考えさせる。それぞれの教科が独立しているのではなく、相互に関連し合うことで深い学びが生まれる点を意識する力を養う。 2. 教師の指導準備の重要性を再確認させる 複数の教科を関連付けた指導には、教科間の調整や教材準備が必要である。そのため、教師が事前にどのような工夫を行うべきかを考えさせる。他教科の教師との連携や地域社会・ICTの活用など、多様な支援が学びにどう寄与するかを具体的に述べることが求められる。 3. 現場における指導者としての資質・能力を評価 教科横断的な指導は難易度が高く、教師には柔軟な思考と支援のバランス感覚が求められる。この問題では、どのような準備や配慮が必要かを述べることで、教師としての実践的な資質を測るねらいがある。	

問 2

本問題は、今後の社会生活において、生成 AI を活用する場面が増えることが予測される。そのスキルを含めた素地を養うために、学校現場での適切な関わり方を学ばせていくことが必要だろう。それを踏まえ、以下の 2 問を設定した。

【問題①】の意図

授業に限定し、生成 AI を活用する意義と課題を明らかにする。そもそも生成 AI の性質上、「統計的にそれらしい応答」を生成するものである。そのため、回答には誤りが含む可能性や事実とは全く異なる内容が生成される可能性がある。その前提を踏まえ、授業において活用していくことでスキルを含めた関わり方を学ぶ必要があるだろう。そこで本問題では、授業という限定された場面で生成 AI を活用する意義と課題について、回答者自身の考えを述べてもらうことを意図している。

【問題②】の意図

問題①の意義と課題を踏まえ、意義を生かした授業案の概要を示す。実際に生成 AI をどのように活用するのかという授業レベルでの提案をする。教職大学院での学びは実習・演習が中心となる。理論的な理解に留まらず、学校現場での授業レベルでの研究・実践に取り組めることが必要である。授業案の作成においてその資質を評価することを意図している。